

◆一関出張所管内を流れる東北地方で一番大きい北上川は、平泉文化が栄えた背景に深く関わっていたことをシリーズ化してご紹介しています。

# 北上川と共に生きた平泉文化 第12弾

—平泉文化を後世に残すため【国の取り組み】—

## 柳之御所遺跡の保存

パート1

### 柳之御所遺跡と一関遊水地計画の変更

#### 遺跡の言い伝え

柳之御所遺跡は、言い伝えでは初代清衡、二代基衡の居館跡といわれていましたが、平安時代以後の北上川の流路の変化によって、削られて無くなったと思われていました。



#### まぼろしの居館、発見

当初、一関遊水地堤防及び国道4号平泉バイパスは、柳之御所遺跡を通る形で計画されていました。

しかし、1988（昭和63）年度から行われた、工事予定地での事前の緊急発掘調査によって柳之御所遺跡が見つかり、まぼろしと思われていた居館が、様々な遺物・遺構とともにその姿を現したのです。

調査の結果、そこは、奥州藤原氏が、平泉の政治・行政を行っていた居館「平泉館」の跡であったことが明らかになりました。

この発掘調査結果から本遺跡は、我が国の歴史を解明する上で重要であるとの判断から、遺跡区域を避け、堤防及びバイパスルートを川側に変更しました。

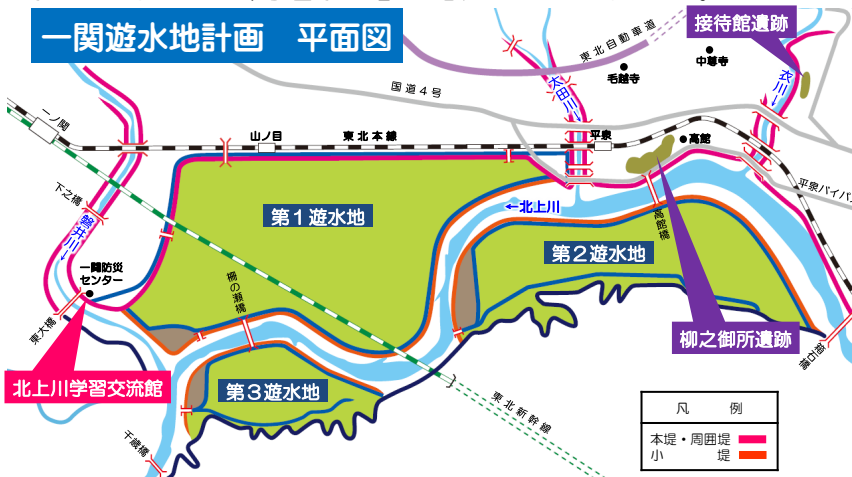


柳之御所遺跡

#### 一関遊水地計画

平泉より南の一関地域は、その地理的特性から水害に悩まされていました。そのため国土交通省では、市街地を洪水から守る「一関遊水地」を計画していました。

#### 一関遊水地計画 平面図



#### 一関遊水地計画とは

1947（昭和22）年及び1948（昭和23）年の洪水による大水害を契機に、1949（昭和24）年2月、舞川地区（現在の第2・第3遊水地）に計画されたのが始まりです。

一関遊水地は本堤・周囲堤と小堤からなる二線堤方式を採用し、第1（820ha）、第2（470ha）、第3（160ha）の3つの遊水地で構成されています。

遊水地への越流は、おおむね10年に1回程度発生する洪水規模以上で、3つの遊水地で同時に開始される計画です。

※バックナンバーはこちら [http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/svuttyoujyo/itnoseki/2020/2020\\_ichinoseki.htm](http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/svuttyoujyo/itnoseki/2020/2020_ichinoseki.htm)  
 第1弾 NO.467 第2弾 NO.468 第3弾 NO.470 第4弾 NO.478 第5弾 NO.479 第6弾 NO.480  
 第7弾 NO.482 第8弾 NO.486 第9弾 NO.487 第10弾 NO.493 第11弾 NO.495

※北上川学習交流館 あいぼーと展示資料より